

伝統を継承する ～羽立大神楽～

二ツ井町字飛根の夏。7月24日に富根愛宕神社例大祭が行われました。この例大祭で悪魔払いの役を担うのは、羽立地区の民俗芸能「羽立大神楽」です。

今回の特集では、羽立大神楽の魅力を伝えるとともに、伝統を受け継ぐ若者たちや保存会の皆さんについてご紹介します。



富根愛宕神社例大祭の様子です。富根報徳番楽や神輿とともに富根の街中を練り歩いたあと、愛宕神社の境内で舞を披露します。神社の参道では先頭に立ち、悪魔払いの意味を込めて勢いよく社殿まで突進する形で舞を披露します。迫力ある舞を見ようと会場には観客が多く集まりました。



羽立大神楽の特徴

獅子頭、赤・白・黒の幕、大小の太鼓、笛、鐘が使用されます。2人で踊る獅子舞は息を合わせることが大切です。獅子を大きく見せるために、幕を大きく動かすことで、力強さを表現しています。

演目が多彩にあることも特徴で、獅子舞だけで祓いの舞や本舞、天の舞など6種類あり、獅子舞のほかに、三勝^{さんかち}、おかめ舞などがあります。かつてはもっと多くの種類があったそうです。

毎年7月24日に行われる富根愛宕

羽立大神楽ってなに？

神社例大祭では、羽立大神楽が先頭になり、富根地区のほかの民俗芸能と一緒に富根のまちなかを、行列をなして巡行します。その後、神社の参道で舞を披露します。また、8月13日のお盆には、墓地で先祖供養のために舞ったあと、地域の中心部で現在行うことができる全ての演目を披露します。

このほか、民俗芸能発表会や、各種イベントで演目を披露することもあります。

羽立大神楽の歴史

確かな文献はありませんが、その昔、一人の至芸に達した芸人が羽立地区を訪れたことから始まったと言われています。その芸人の人柄や芸に魅せられた地区の人たちが、芸人から芸を教えてもらったそうです。

昭和58年2月12日に、秋田県指定無形民俗文化財に指定されました。

